

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2302100107		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら奥町 1F		
所在地	一宮市奥町字内込45-11		
自己評価作成日	平成26年 12月 26日	評価結果市町村受理日	平成27年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2392200107-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の小規模多機能型居宅介護と合同でイベントを開催したり、お互いの利用者が行き来したりして、協力関係を築きながら取り組んでいる。
最近ではパン教室を開催し、小規模・グループの利用者様合同で、パン作りを楽しんでいる。小規模を利用していた方が入居された後、小規模利用者がグループホームに遊びに来られるなど、利用者同士の交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に日中の時間を楽しんでほしいという思いもあり、日常的な支援の中で様々なレクリエーションに取り組んでおり、多くの外出行事が行われており、日常的にも喫茶や外食等の楽しみが行われている。食事作りについても、ホーム内で調理を行っており、職員も一緒に会話を楽しみながら食事が行われている。おやつに関しても、基本手作りで提供されており、時には、利用者も参加したおやつ作りが行われている。また、事業所の隣には、小規模多機能事業所が併設されていることで、夜間の時間には、職員が3名勤務している体制となっているため、非常災害時や救急搬送の際には、職員間で連携しながら、迅速な対応が可能である。複合型の利点を活かして、複数の看護師が勤務している体制であるため、利用者の急変時等の際にも必要な処置等が行えるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を「絶え間ない 笑顔と優しさ うららかに」と定め、玄関に掲示している。	ホーム名である「うらら」から取った言葉を理念としており、玄関等への掲示も行っている。職員には、由来やモットーを説明しており、日常的に理念に即した支援に結び付くように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や行事に参加したり、地域の店へ外食などに出かけている。	地域で開催されている盆踊りや災害訓練には、ホームからも参加しており、地域の方との交流につなげている。また、ホームで開催した夏祭りの際には、多くの地域の方の参加が得られており、盛大に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りに参加していただいている。回覧板にて案内やお礼状を回している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会長、民生委員、ご家族の意見をうかがい、市役所高齢福祉課、地域包括支援センターのご指導を受けている。ご利用者にも参加いただいている。	会議は、関連事業所との合同で開催されており、ユニット毎に活動状況の報告が行われている。また、会議には、様々な分野の方の参加が得られていることで、ホームの運営への反映につなげている。	会議に町内会長や地域包括支援センター職員の出席につながるように、今後も継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話などで疑問点などを尋ねるようにしている。窓口に出向くこともある。	市内の介護事業所が集まる連絡会に、ホームからも出席しており、必要な情報交換等に取り組んでいる。また、地域包括支援センターとも情報交換等が行われており、併設事業所との合わせた情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の際に勉強会を断続的に行うなどして、職員の意識づけに努めている。	身体拘束を行わない方針を掲げており、ホーム内には施錠を行っておらず、利用者の状況をみながら一緒に外に出る等、職員による見守りが行われている。また、年間計画の中で必要な職員研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会で議題に上げて、意識付けと防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の議題に挙げるなどして、制度の理解と支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書・契約書の内容を口頭で読み上げながら説明するとともに疑問点にも答えて理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、重要事項の説明の一環として苦情窓口の説明。玄関にご意見箱の設置。推進会議への「声のポスト」等設置。	ホーム全体での家族会の他にも、ホームの行事への参加も呼びかけており、家族間の交流につなげている。玄関に意見箱を設置したり、「声のポスト」による意見等の把握にも取り組んでいる。また、2か月に1回のホーム便りの発行も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議、フロアリーダー会議を開催し、改善できる部分と改善しなければならない部分から順次意見を反映している。	ホーム全体の全体会議とユニット毎の会議が行われており、現場職員の意見等については、併設事業所とのリーダー会議の場でも反映に取り組んでいる。また、管理者による個別面談の機会もつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト勤務の時間帯や内容を見直しつつ、利用者の生活を考慮しつつ、改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加を促し、学んだことを職員会で他の職員に伝達するようにし、また職員会議の際にテーマを決めて勉強会をしている。欠席者は議事録を必読。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会やケアマネ会に出席するなど、交流の場に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはご家族からの話になりがちであり、ご本人からは入居後に聞くことが多い。なるべく本人との面談の機会を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は随時お聞きして、不安を少しでも取り除き安心・信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望ばかりではなく、ご本人とご家族にとってグループホーム入居が適切かどうか見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している意識を持ち、入居者様の生活を尊重しながら生活のフォローをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診付き添い、施設の行事参加、推進会議への出席依頼など連絡を密にとっている。本人の状態の変化なども必要に応じて連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会や外出・外食もあり、昔の友人も面会に来ることもある。	利用者の友人、家族との連絡をはじめ、入居前からの生活習慣を継続している方もおり、馴染みの関係継続につなげている。また、家族との外出の機会もつづられており、買い物や喫茶外出をはじめ、時には法事にも出かけて親戚と交流している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を把握し、必要があれば職員が入って良好な関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、新しい施設へ面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を随時間き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は説明して納得・了解していただく。	ホームでは、職員全員で利用者の把握に取り組んでおり、毎月の便りを職員間で交代しながら作成していることで、一人ひとりの把握につながっている。また、月1回のカンファレンスの時間をつくりながら職員間で話し合い、思いや意向等の共有につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込時の面談や入居契約時に、本人の生活環境やサービス利用経過を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談や入居後の様子を見て、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや会議の際等確認し、反映に努めている。	介護計画は、基本6か月で見直しており、内容の見直しの際には、職員で気付いた事等を所定の用紙に記入した上で計画作成担当者が内容の確認を行っている。また、モニタリングについては3か月毎に行っており、変化の把握に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間の申し送りノートや日常生活記録等に記入し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のその時々々の要望に沿えるよう、柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への散歩や、ボランティアの方々に来ていただき、楽しんでいただいている。音楽療法・リハビリ体操の講師も招いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族に話を聞き、ご希望の主治医に通えるよう、個別に対応している。	協力医による月2回の訪問診療が行われており、時間外の連絡も可能である。受診支援は基本家族であるが、ホームからも情報提供や必要時には同行している。また、ホームには併設の事業所と合わせて、複数の看護師が勤務している体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りの際等、看護師と相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き、入居者の治療状況の把握に努めている。入院中はケアマネが窓口となり、病院のソーシャルワーカー・家族と密に連絡をとり退院に向けて備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設としての考え方を話しし、ご家族の意見・希望をお聞きし、状況に応じた対応を心がけている。	ホームとしては重度の方の支援もできるように体制を整えており、看取り支援を行った経験もある。家族とは状態に合わせた話し合いに取り組んでおり、ホームでの生活の他にも、特養や医療機関へ繋いでいく支援も行われている。	ホームでは、全体的に利用者の重度化が進んでいる状況でもあり、継続して職員体制の整備を行っているが、困難な点もある。より良い終末期につながるように、継続した取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立会いのもと定期的に応急処置対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施し、災害対策に努めている。	ホームでは、毎月の避難訓練を実施しており、併設事業所との合同の訓練や消防署職員の立ち会いも行われている。地域の災害訓練にも参加しており、地域の方との情報交換にも取り組んでいる。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームは、近くに木曾川をはじめとする河川がある環境下でもある。水害に対応した訓練の充実と、地域の方との相互の協力関係の構築について、今後も継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするよう心がけている。	職員による利用者への対応については、研修の機会や職員会議でも話し合われている他にも、日常的にも管理者からの注意喚起も行われている。また、排泄介助時の声かけ等についても、プライバシーに配慮するように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、日常生活で会話し、希望を引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性やペースを大切にして、個人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家にあった服を持って来てもらったり、本人や家族に聞き、新しい服を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューの紹介をしたり、食後の下膳をできるだけ自分で行ってもらっている。	法人の管理栄養士が作成したメニューを基本に、利用者の好みや嗜好にも配慮して調理が行われている。利用者も出来ることに参加しながら食事作りが行われている。また、身体状態に合わせた食事形態の配慮の他にも、喫茶や外食等の楽しみも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態を把握し、スタッフと話し合い、必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後・食後・就寝前の口腔ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し、排泄パターンを把握し、声かけ誘導し対応している。	利用者毎の排泄状況が分かるように、職員間でチェックを行っており、申し送りも合わせて情報を共有しながら、トイレでも排泄に取り組んでいる。また、ヨーグルトや牛乳を取り入れたおやつ等、排泄状態の維持、改善につながる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナを提供したり、毎日散歩へ行く声かけをしている。解消しない場合は下剤・整腸剤を使用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが、その日本人に声かけ市、希望の順番に入ってもらっている。	1日おきの入浴となっているが、希望に合わせて毎日の入浴も可能であり、時間についても状況に合わせた対応が行われている。また、複数の職員による入浴介助や季節に合わせた入浴も行われている他にも、銭湯に出かけたこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を把握し、本人の意思を尊重し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を常備していつでも確認できるようにしてある。短期の服薬(風邪薬など)についても看護師が薬をセットする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や趣向・残存能力を鑑みて、その人に応じた楽しみを見出すように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、喫茶店モーニングなど、外出する機会を設けている。気候が良い時期には遠足・外食などを実施している。	ホームでは、利用者の外出の機会を多くつくるように取り組んでおり、職員で外出先を検討しながら、外食や喫茶外出等が行われている。また、季節に合わせた花見や公園への外出行事の他にも、市外への外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人の金銭は、一括管理をさせていただいている。財布の中に小額を入れて持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人用の携帯電話を持っている方がいらしゃり、時々直接連絡をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作った作品(貼り絵・塗り絵・折紙など)をリビングに飾っている。季節感を感じられる作品をスタッフと入居者で作って飾っている。	リビング内は、自然に近い色彩の壁紙等を使用していることもあり、落ち着いた雰囲気となっており、ゆったりとした広さの空間となっている。また、リビングや通路の壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等が飾られてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室のほかフロアのソファや和室に腰掛けたり、テーブル席もあり、空間作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、在宅時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。見覚えのある品々が環境作りに欠かせないことを家族に伝えている。	居室内は利用者の生活習慣にも合わせて、家具や寝具等が持ち込まれており、一人ひとり個性のある居室づくりが行われている。また、家族の写真や作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所に取り付けたり、キッチンの高さを通常より低くしたり、高齢者が使用しやすいように配慮している。		